

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-78	中学校	国語	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 701	新しい国語 1		

1. 編修の基本方針



豊かな学びが未来を拓く

言葉には力がある。

言葉があるから、豊かに想像することができる。

言葉があるから、深く思考することができる。

言葉があるから、思いや考えをしっかりと届けることができる。

子供たちの「言葉の力」を育てたい。

「言葉の力」を身につけ、人々や社会と関わり合い、未来を切り拓いていってほしい。

そんな思いを込めて、私たちはこの教科書をつくりました。



特色

1

「言葉の力」を、しっかり鍛える。

——どんな力を、どうやって身につけるのか、その問いに答える教科書です。



国語は何を学ぶ教科なのか。どうやって学習すればいいのか。そんな疑問に答える教科書を追求しました。基礎トレーニングと実践的言語活動の繰り返しによって、生活に生きる「言葉の力」をしっかりと身につけることができます。



特色

2

想像する，思考する，伝え合う。

——日本の言語文化を受け継ぎ、未来を切り拓いてゆく言葉の担い手を育てます。

読み継がれてきた古典や近代文学，心に響く現代文学，古今の詩歌などを読んで、想像力を育み、感性を磨きます。また、現代の科学の成果や社会・人間の抱える問題を題材として、論理的・多面的に、かつ粘り強く思考することを学びます。そして、思いや考えを伝え合う活動を通して、生徒を主体的・対話的で深い学びへと導きます。



特色

3

学ぶ心に，火をつける。

——生徒が思わず学びたくなる，次の学びに向かいたくなる，そんな仕掛けをちりばめました。

ぱらぱらと教科書をめくり、たまたま開いたページをつい読みふけてしまう。いつのまにか学びが始まり、本を閉じたときには言葉がより豊かになっている。そんな教科書を目指しました。個性ある6人の生徒たちと「言葉の精」が、言葉の学びへと誘います。

1. 「言葉の力」を、しっかり鍛える。

—どんな力を、どうやって身につけるのか、その問いに答える教科書です。

① 「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの教材で身につけたい学びのポイントを、「言葉の力」と題した囲みで明示しています。

- 「話す・聞く」「書く」「読む」教材の冒頭には、「言葉の力」に関わる「問いかけ」を設け、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるようにしています。
- 「言葉の力」は、「読む」から「書く」「話す・聞く」につながるように、また、3年間で系統的に積み上がるように配置しています。

② 基礎編「学びを支える言葉の力」で、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域の学習を支える、国語の基礎的な力を鍛えることができます。

- 導入となる本編「学びの扉」では、ふだんの生活の中での言語能力に関わる「なぜ？」を提示し、生徒を主体的な学びへと誘います。
- 「学びを支える言葉の力」は、続く「話す・聞く」「書く」「読む」の学習に生きるのももちろんのこと、国語科だけでなく、他教科の学習や生活にも生きてきます。

③ 本編・基礎編で、学習指導要領に示されている資質・能力を確実に身につけられるようにしています。

- 主に「学びを支える言葉の力」と「読書」「古典」「言葉」の教材で「知識及び技能」を、「話す・聞く」「書く」「読む」の教材で「思考力、判断力、表現力等」を扱っています。

- 習得と活用を繰り返しながら、求められる資質・能力を確実に身につけることができるように、また、次の教材に学習意欲が繋がっていくように、教材を配置しています。

- 「言葉の力」「学びを支える言葉の力」をはじめ、教科書全体を通して、生徒が言葉に着目し、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるように工夫しています。

- 全国学力・学習状況調査や大学入学共通テストで求められている学力の育成に適した題材や言語活動をそろえています。



2. 想像する、思考する、伝え合う。

—日本の言語文化を受け継ぎ、未来を切り拓いてゆく言葉の担い手を育てます。

① 主体的・対話的で深い学びを実現する仕組みや言語活動を工夫しました。

- 各教材を「目標」・「問いかけ」→「言葉の力」→記述式の「振り返り」という流れで構成し、生徒が主体的に学習に取り組んだり振り返ったりできるようにしました。
- 生徒どうしが互いに助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、お互いの考えを生かして結論をまとめたりする課題解決的な言語活動を数多く設け、対話を通して学びを深められるようにしました。

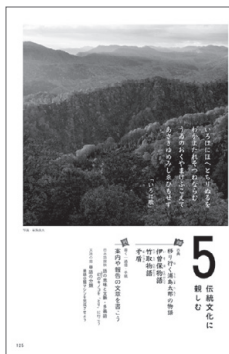
② 教育基本法 第1章 第2条に掲げられた目標を達成するために、以下の観点で題材を選定・作成しました。

- ア 日本の伝統・文化への理解を深め、親愛の情を持てる題材
- イ 情報化・国際化の進む現代社会を担っていく素養を育む題材
- ウ 論理的かつ多面的に考え、説得力をもって伝える力を磨く題材
- エ 豊かな想像力と、共感する心、他者と協働する精神を養う題材

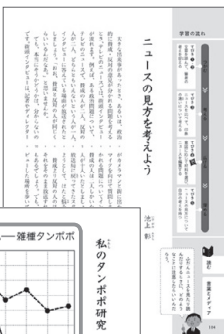
ア 日本の伝統・文化への理解を深め、
親愛の情を持てる題材

いにしえより言葉を受け継ぐ。

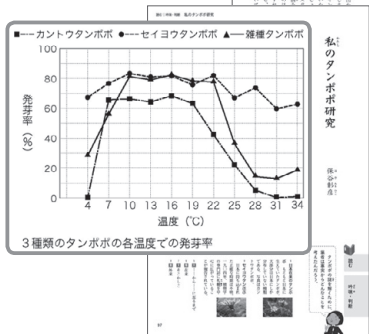
- 古典をはじめ、美しく豊かな日本語に触れる機会を数多く設けています。
- 生徒の理解を助けたり、想像力を喚起したりするための写真資料も豊富です。



p.184~「ニュースの見方を考えよう」



p.97~「私のタンポポ研究」



イ 情報化・国際化の進む現代社会を担っていく素養を育む題材

見方を変えると、世界が広がる。

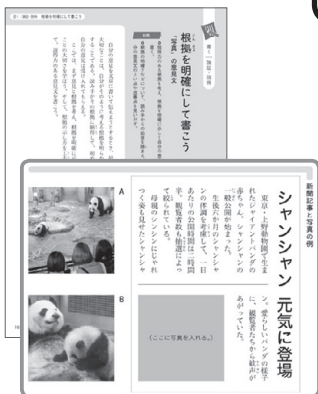
- 多様なものの見方を育んだり、多様な人々と支え合って生きる姿勢に学んだりできる題材を取り上げました。
- メディアリテラシーや情報活用について学ぶ教材を全学年に掲載しています。

ウ 論理的かつ多面的に考え、
説得力をもって伝える力を磨く題材

なぜ、そのように考えるのか。

- 明快な構成の文章で、論理的かつ多面的に考えることのできる説明文をそろえました。
- 「書く」では、説得力のある意見文の書き方を、3年間で段階を踏みながら学んでいきます。

p.42~「さんちき」



p.107~「根拠を明確にして書こう」

エ 豊かな想像力と、共感する心、他者と協働する精神を養う題材
葛藤と決意。今、大人への扉を開く。

- 文学では、登場人物の思いや意志に触れながら、想像力や共感する心を育てていきます。
- 平和への思いを受け継ぐ作品を全学年に掲載しています。
- 「話す・聞く」を中心に、協働的な学びができるように工夫しています。

3. 学ぶ心に、火をつける。

——生徒が思わず学びたくなる、次の学びに向かいたくなる、そんな仕掛けをちりばめました。

① 生徒が言葉の学びへの関心を高め、主体的に学習に取り組めるようにしています。

- 個性ある6人の生徒たちと「言葉の精」(案内役のキャラクター)が登場し、生徒を主体的な言葉の学びへと導きます。3年間の教科書を通して、実際の生徒と同じように、悩み、考え、成長していきます。
- 基礎編「学びを支える言葉の力」の導入ページである本編「学びの扉」では、日常生活の中で陥りがちなつまづきの場面を漫画で描き、言葉の学びの意義を伝えるとともに、生徒の学習意欲を引き出します。
- 物語仕立ての「日本語探検」、ゲーム感覚で取り組める「文法の窓」など、楽しく学べる仕組みを随所に設けています。
- 資料編やDマークコンテンツ(ウェブページに用意している音声や映像の資料)を中心に、家庭でも学ぶことのできる教材を数多く用意しています。

② 生徒が学習の見通しを持ったり、学んだことを振り返ったりすることができます。

- 巻頭の目次に続くページには、「小学校で学んだこと」と、「1年で学ぶこと」をまとめて示しています。領域・教材ごとにどんな資質・能力を身につけるのかが分かります。
- 巻末の「『言葉の力』一覧」には、3年間で学ぶ「言葉の力」と「学びを支える言葉の力」を示しました。3年間の学習のつながりや深まりを確認することができます。

③ 言葉の学習が、国語科のみならず他教科の学習や生活にどう生きるのかを実感できるように工夫しました。

- 基礎編「学びを支える言葉の力」の末尾の「つながる・広がる」には、学んだことが国語科や他教科の学習、生活のどんな場面で生きるのかを示しています。
- 他教科の学習と関連させることで学びを深められる教材には、教科関連マークを示しています。



学びの扉

学びを支える
言葉の力
[つながる・広がる]



日本語探検



文法の窓

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 () 内は、教育基本法 第1章 第2条のうち、特に関連の深いものを示す。	該当箇所
言葉の学習	・コミュニケーションの基本、「話し方」から学びが始まります。(第3号)	➡ 14-21ページ
1 言葉を楽しむ	・詩の鑑賞と創作を通して、豊かな情操を育みます。(第1号)	➡ 24-31ページ
2 思いを捉える	・少年の葛藤と成長を描いた「飛べ かもめ」を通して自律の精神を、職人の弟子の決意を描いた「さんちき」を通して勤労を重んずる心を育みます。(第2号) ・相手の話を共感的に聞くことを学び、他者を尊重する態度を養います。(第3号)	➡ 36-53ページ ➡ 54-57ページ
3 分かりやすく伝える	・オオカミに対する見方の相違や変化を論じた「オオカミを見る目」を通して、価値観の多様性や環境の保全についての認識を深めます。(第1・4号) ・全教科の学習や社会生活に必要な、レポートの書き方を学びます。(第1・3号)	➡ 62-69ページ ➡ 70-76ページ
4 考えをまとめる	・「私のタンポポ研究」を通して科学的なものの見方を、根拠を明示して意見文を書くことを通して論理的な考え方を学びます。(第1・4号) ・似ている言葉についてのスピーチをして、言語文化への認識を深めます。(第5号)	➡ 96-105, 106-111ページ ➡ 112-117ページ
5 伝統文化に親しむ	・導入教材「移り行く浦島太郎の物語」で古典への関心を高めます。(第5号) ・豊富な写真資料と併せて古典を学び、伝統文化に親しみます。(第1・5号) ・案内や報告の文章を書いて、社会と関わっていく態度を養います。(第3号)	➡ 126-129ページ ➡ 130-147ページ ➡ 148-149ページ
6 作品を読み解く	・少年時代の熱情と悔恨を描いた「少年の日の思い出」を読むこと、視点を変えて心情を描くことを通して、自律の精神と豊かな情操を育みます。(第1・2号)	➡ 154-168, 169ページ
7 表現を考える	・ニュース制作の裏側を明かす「ニュースの見方を考えよう」を読み、ニュースの編集に取り組んで、情報を受信・発信する際の注意点を学びます。(第1・3号) ・グループディスカッションを通して、公共的・協働的な態度を養います。(第3号) ・随筆を書くことを通して、個性を磨き、創造性を養います。(第2号)	➡ 184-191ページ ➡ 192-198ページ ➡ 199-204ページ
詩	・一人一人の多様性とその調和をうたう「風の五線譜」、成長への希求をうたう「わたしの中にも」を学びます。(第2号) ・「日本語のしらべ」として、中原中世の「月夜の浜辺」を学びます。(第5号)	➡ 巻頭見返し、 208-209ページ ➡ 122-124ページ
読書 (読書への招待/ 読書案内/読書活動)	・原爆の悲劇を伝える「碑」を読み、生命を尊び平和を願う心を育みます。(第4・5号) ・義足の人を支援する義肢装具士の姿を描いた「風を受けて走れ」を読んで、他者と支え合う心を育み、働き方や生き方への意識を高めます。(第2・3号) ・芥川龍之介の「トロッコ」を読み、近代文学に親しみます。(第1・5号) ・3学年で361冊のさまざまなジャンル・テーマの本を紹介し、本を読んで調べたり感想を交換したりする活動を設定しています。(第1～5号)	➡ 80-91ページ ➡ 172-179ページ ➡ 210-219ページ ➡ 92-94, 180-182ページ ほか
言葉 (日本語探検/ 文法の窓/漢字道場)	・日本語の特徴や文法、漢字を学び、日本語への興味・関心を高めます。(第1・5号) ・「広がる言葉」「言葉を広げよう」で1555の語彙を提出しています。教科書全体を通してさまざまな語彙に触れ、語感を磨き、語彙習得への意欲を高めます。(第1・5号)	➡ 22ページ ほか ➡ 53, 328-331ページ ほか

【基礎編】 <small>(学びを支える言葉の力・文法解説)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを支える言葉の力」で、情報の扱い方や表現の仕方、コミュニケーションの基盤など、国語科だけでなく他教科の学習や生活にも生きる基礎力を育みます。(第1号) ・文法について詳しく学び、適切な日本語を使おうとする意識を高めます。(第1・5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 226~249ページ ➡ 250~266ページ
【資料編】	<ul style="list-style-type: none"> ・本編の作品と読み比べられる小説・説明文や古典作品、語彙・漢字資料など、多くの資料を掲載し、自主的な学習に役立てることができるようになっています。(第1~5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 268ページ~巻末

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

● (1) 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

① 特別支援教育への配慮

- ・特別支援教育の観点から、内容およびデザインについて検討し、専門家による校閲を受けています。全ての生徒にとって各部分の認識や重要な部分の判別がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色遣いを工夫しています。
- ・国語の授業では、文章の行数で指示を出すことがしばしばあります。生徒が行を数えやすいように、各行の下に数字と点を付しました。
- ・本文書体に、小学校教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を使用しています。

② ユニバーサルデザインへの取り組み

- ・カラーユニバーサルデザインの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けています。生徒の色覚特性への配慮から、色以外の模様や記号できちんと識別ができるようになっています。
- ・脚注欄などの小さな文字や色文字の振り仮名にはゴシック体を用い、読みやすさに配慮しました。

③ 人権上の配慮

- ・文章やイラストなどに登場する人物について、性別による役割の固定化や人数の偏りがないように配慮しました。

④ 造本上の工夫

- ・環境への配慮から、再生紙・植物油インキを用いています。また、本文用紙の軽量化に努めています。製本は堅牢です。

● (2) 今日的な課題への取り組み

① 現代的な諸課題への取り組み

- ・伝統・文化の継承を重視しています。古典や近代文学・近代詩を手厚く取り上げるとともに、日本の伝統・文化に関する文章や言語活動も数多く扱っています。
- ・さまざまな現代的な諸課題を、文章や言語活動の題材として取り上げています。特に、戦争・平和、防災・安全、環境、多様性社会、キャリア教育に関する題材を積極的に扱い、他教科の学習とも関連していることを教科関連マーク(㊟)で示しました。
- ・メディアリテラシーおよび情報活用能力を育成する教材を全学年に設けました。

② 道徳教育との関連

- ・豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を育てる協働的な言語活動を豊富に取り上げました。

③ 小・中・高の連携

- ・小学校の学習内容(学習指導要領)を踏まえて中学校の学習目標および「言葉の力」を設定し、小中9年間の系統性を図りました。
- ・小学校6年から中学校1年への学習の移行がスムーズに行えるように、1年の初めの文章教材は、小学校と同じ教科書体で、大きな文字で掲載しました。また、1年前半の教材は難しい内容を避け、小学校高学年の復習にもなるように配慮しています。
- ・3年では、高校への橋渡しとなるように、社会性のある題材や言語活動を多く設けたり、論説文・評論文を掲載したりしています。また、3年資料編で「古典の文法」(発展的な学習)も扱っています。

④ 学力向上への取り組み・家庭学習の支援

- ・全国学力・学習状況調査や大学入学共通テストで求められている学力の育成を意識して、文章や言語活動の題材を選定しました。また、文章や図表から読み取った情報を結び付けてまとめたり、条件に従って考えを記述したりする設問を設けました。
- ・「読む」の脚注語彙や「広がる言葉」、資料編、Dマーク(㊟)で示した資料(デジタルコンテンツ)を中心に、家庭でも学ぶことのできる内容を用意しています。予習・復習や、学んだことを生かして取り組む学習に活用できます。

⑤ 他教科の学習や生活を支える言語能力の育成・豊かな読書生活の支援

- ・「学びの扉／学びを支える言葉の力」で、他教科の学習や生活で必要となる言語能力の基礎を築くことができます。また、レポートや新聞、手紙、さまざまな形式のスピーチや話し合いなど、他教科の学習に生きる言語活動をそろえています。
- ・全ての学習の基盤にもなる読書を重視し、「読書案内」や「読書活動」を充実させるなど、生徒の豊かな読書生活を支援しています。

● (3) 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- ・学習目標および「言葉の力」と、学習の流れを分かりやすく示しています。また、「話す・聞く」「書く」では、完成作品例や途中段階の具体例を豊富に示し、学習を進めるうえでの手がかりになるようになっています。
- ・教師用指導書や教科書周辺教材を通じて、学習指導をさまざまな面から支援します。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- ・他教科の学習内容と関連があり、相互に学びを深めることのできる題材を多く取り上げ、教科関連マーク(㊟)で示しました。
- ・「話す・聞く」「書く」「読む」の各教材は、学習内容が相互に緩やかに関連していますが、基本的には独立して扱うことができます。そのため、学校の実情に応じて、教材の順番を組み替えて扱うことが可能です。

③ 教育のICT化への取り組み

- ・Dマーク(㊟)を示した教材では、インターネットを通して利用できる音声や映像などの資料(デジタルコンテンツ)を用意しています。「話す・聞く」の音声や「古典」の朗読・資料映像、「文法ゲーム」などを、スマートフォンやタブレットからも活用できます。
- ・制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-78	中学校	国語	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 701	新しい国語 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

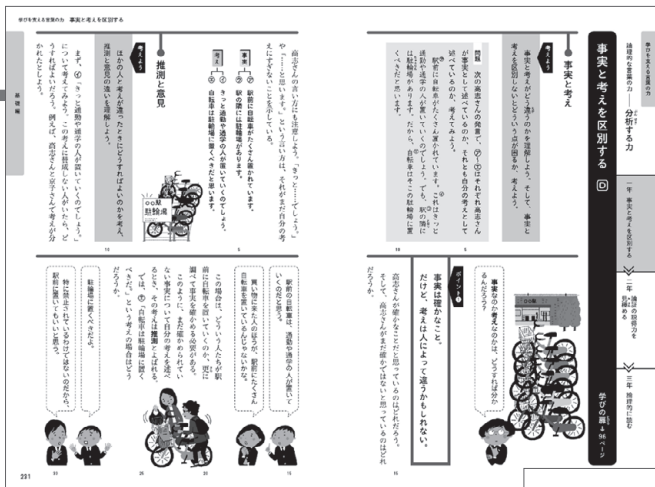
「言葉の力」を、しっかり鍛える。

—どんな力を、どうやって身につけるのか、その問いに答える教科書です。

- 1 「言葉の力」で学習のポイントを確認。
「学びを支える言葉の力」で基礎力をトレーニング。

言葉の力

- 「話す・聞く」「書く」「読む」で身につけたい資質・能力を、「言葉の力」と題した囲みで明示しました。
- 「言葉の力」は各教材間でつながりを持っています。例えば、「読む」で学んだ「言葉の力」を、続く「書く」や「話す・聞く」で生かすことができます。
- 同じ系統の「言葉の力」を、学年内および3年間で、段階を追って積み上げられるように、教材を配置しています。



基礎編
「学びを支える言葉の力」

学びを支える言葉の力

- 基礎編「学びを支える言葉の力」は、「話す・聞く」「書く」「読む」を支える基礎的な力を鍛えるトレーニング教材です。本編「学びの扉」が生徒を学びに誘います。
- 「学びの扉/学びを支える言葉」の学びは、続く「話す・聞く」「書く」「読む」の学習に生かすことができます。
- 「学びの扉/学びを支える言葉の力」の学びは、国語の基礎力となるだけでなく、他教科の学習や生活の中での言語活動を支える基礎力にもなります。

「言葉の力」一覧

- 学習指導要領に示されている指導事項のうち、主に「学びを支える言葉の力」と「読書」「古典」「言葉」で「知識及び技能」を、「話す・聞く」「書く」「読む」で「思考力、判断力、表現力等」を扱っています。
- 学習指導要領に新設された「情報の扱い方に関する事項」も、「学びを支える言葉の力」で取り立てているほか、3領域の各教材でも扱っています。
- 巻末に、3年間の「言葉の力」と「学びを支える言葉の力」の一覧を掲載しました。また、巻頭に「1年で学ぶこと」として、各教材の学習内容と学習指導要領との対応をまとめています。

言葉の力 事実と考えの関係を捉える

○事実と考えを区別する。
▼事実とは、確かなこと、例えば、実際に起こった出来事、信頼できるデータ、科学的に証明された事柄などである。
▼考えとは、まだ確かでないこと(推測)や、人によって賛成・反対が分かれること(意見)である。
▼文末表現が手がかりになることもある。

言葉の力 話の中心を明確にして、構成を考える

○材料を整理し、伝えたいこと(話の中心)を明確にする。
○聞き手に分かりやすく伝えるために、詳しい説明を加えたり、具体例を挙げたりする。
○それぞれの話のまとまりをどのように配列するかを考える。
○話のまとまりの初めに、内容を示す語句を用いたり(「ベリンク」)、「まず」「次に」「つづいて」などの順序や数を表す語句を用いたり(ナンバリング)する。

対話的な言葉の力	文学的な言葉の力		論理的な言葉の力	
	読解する力	読解する力	読解する力	読解する力
相手の話を聞き止め、引き出す(240)	相手の話を聞き止め、引き出す(240)	相手の話を聞き止め、引き出す(240)	相手の話を聞き止め、引き出す(240)	相手の話を聞き止め、引き出す(240)
相手の立場を踏まえ、考えを深める	相手の立場を踏まえ、考えを深める	相手の立場を踏まえ、考えを深める	相手の立場を踏まえ、考えを深める	相手の立場を踏まえ、考えを深める
相手や目的に応じて伝える	相手や目的に応じて伝える	相手や目的に応じて伝える	相手や目的に応じて伝える	相手や目的に応じて伝える

想像する，思考する，伝え合う。

—日本の言語文化を受け継ぎ，未来を切り拓いてゆく言葉の担い手を育てます。

2 学習の流れがよく分かる。主体的・対話的で深い学びを実現。

学習の流れ

- 各教材を「目標」・「問いかけ」→「言葉の力」→「振り返り」という統一した流れで構成しました。教材冒頭には，目標に関わる生徒の吹き出しを置き，目標を意識しながら学習に取り組めるようにしました。「振り返り」は記述式で，学んだことを自分の言葉でまとめます。
- 巻頭に「学習の進め方・教科書の使い方」を掲載しました。

主体的・対話的で深い学び

- 生徒どうしが助言し合ったり，議論を通して考えを深めたり，お互いの考えを生かして結論をまとめたりする言語活動を数多く設けました。キャラクターたちの話し合いに倣って，学びを深めることができます。
- 「話す・聞く」「書く」では，完成作品例や途中段階の具体例を豊富に掲載しました。これらを参考にしながら主体的に学習を進めることができます。

目標
言葉の力
振り返り

私のタンポポ研究
保谷彰彦

てびき

問いかけ

p.199~「心に残る出来事を表現しよう」(下段に具体例や話し合いの例を掲載)

p.172~「風を受けて走れ」(義肢装具士についてのドキュメンタリー)

風を受けて走れ

道徳・保健体育

学習の進め方・教科書の使い方

ここが大切！
目標・問いかけ
言葉の力
振り返り

p.10~「学習の進め方・教科書の使い方」

他教科との関連

- 他教科の学習内容と関連のある教材には，教科関連マーク（🌀）を付し，関連する教科名を示しました。関連のある学習内容を想起し，学びを深めていきます。

3 多様な文章や言語活動を通して，想像を広げ，思考を深め，伝え合い，高め合う。

想像を広げる

- 珠玉の古典作品，格調高く読み応えのある近代文学，親しみやすく心に残る現代文学をそろえました。七つの扉に写真とともに短詩を掲載するなど，美しい日本語に触れる機会を多く設けました。
- 登場人物の思いや意志に触れながら，想像力や共感する心を育てる作品を，選りすぐって掲載しています。
- 「書く」では，想像を広げ，言葉や表現を吟味して豊かに描写することを学びます。

思考を深める

- 学習目標に則した書き下ろしの文章が数多くあります。構成や論理の明快な文章を通して，論理的・批判的に考える力を磨きます。読み比べや図表の読み取りも扱っています。
- 読み取ったことを図表にまとめたり，文章を踏まえて考えたことを条件に従って書いたりする設問を，多く設けています。
- 「話す・聞く」「書く」では，事実と意見を区別して話したり，根拠を明確にして意見文を書いたりします。

p.62~「オオカミを見る目」

p.210~「トロッコ」

オオカミを見る目

小さな発見を詩にしよう

p.30~「小さな発見を詩にしよう」



p.80~「碑」

伝え合い、高め合う

- 伝統・文化のほか、戦争・平和や防災・安全、環境、多様性社会、キャリア教育など、現代的な諸課題を積極的に取り上げました。また、多様なものの見方や考え方ができる作品をそろえています。
- 「話す・聞く」「書く」では、相手の立場を踏まえて議論したり、書きあげた作品について助言し合ったりするなど、伝え合い、高め合う活動を重視しています。

学ぶ心に、火をつける。


——生徒が思わず学びたくなる、次の学びに向かいたくなる、そんな仕掛けをちりばめました。

4 学びに向かう力を引き出す。

● キャラクターによる学びへの誘い

- 個性ある6人の生徒たちと「言葉の精」（案内役のキャラクター）が登場し、生徒を言葉の学びへと誘います。

● 学習意欲を引き出す仕掛け

- 物語仕立ての「日本語探検」、ゲーム感覚で取り組める「文法の窓」、言葉の学びを深めるきっかけとなる漫画「学びの扉」。いずれも生徒の学習意欲をかき立てます。
- Dマーク（) を示している教材では、ウェブページに、学習に関連する音声や映像などの資料（デジタルコンテンツ）を用意しています。家庭でも利用できます。

● 読書案内と語彙資料

- 読書案内では、3学年で361冊の、さまざまなジャンル・テーマの本を紹介しています。学校図書館などを利用して行う読書活動も充実しています。
- 「広がる言葉」「言葉を広げよう」（資料編）では、3学年で1555の語彙を提示し、本編教材との関連も図りました。

5 学びの地図を持ち、国語学習を生活に生かす。

● 学びの見通しと振り返り

- 巻頭の目次に続くページに、「小学校で学んだこと」と「1年で学ぶこと」をまとめて示しました。
- 各教材中には、適宜「学習の流れ」を示したり、記述式の「振り返り」を設けたりしました。

● 生活に生かす

- 巻頭扉「言葉の学習を始めよう」に国語学習の意義を示したほか、国語の学びを生活に生かす視点を各所に提示しました。

学びの扉

日本語探検



「小学校で学んだこと／1年で学ぶこと」



観点別の特色

教育基本法の遵守	● 教育基本法の目的と理念を実現するため、特に次の4点を育むことを重視して編集している。 ① 幅広い知識・教養と思考力 ② 豊かな人間性 ③ 伝統文化を受け継ぐ心 ④ 未来を切り拓く創造性と公共の精神
学習指導要領の遵守	● 中学校学習指導要領（国語）に示された教科の目標に則り、指導事項と言語活動例をもれなく扱っている。 ● 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の多彩な言語活動を通して「思考力、判断力、表現力等」の育成に努めるとともに、「言葉」「情報の扱い方」「古典」「読書」など「知識及び技能」も重視している。
内容・系統	● 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習が、相互に関連しながら、3年間で系統的に積み上がるように構成している。また、3領域を支える基礎的な力を鍛える「学びの扉／学びを支える言葉の力」を設けている。 ● 「読書」「古典」「言葉」の学習は、生徒が意欲的に取り組み、確かな力をつけられるように工夫している。 ● 主体的・対話的で深い学びに資する多彩な題材および課題解決的な言語活動をそろえている。 ● 言葉に着目し、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組めるように、学習の流れを工夫している。
配列・分量	● 本編・基礎編・資料編の3部から成っている。学習指導要領の内容は本編・基礎編で網羅しており、基礎編では本編の内容を掘り下げて学習できる。また、資料編を用いて、適宜学習の深化や拡充が図れる。 ● 3学期制でも2学期制でも各領域等の指導がバランスよくなされるように、教材を配列している。

<p>資質・能力の育成</p>	<p>[知識及び技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「言葉」や「情報の扱い方」については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習の中で繰り返し扱うとともに、「言葉」の教材や「学びの扉／学びを支える言葉の力」など、取り立てて学習する教材も設けている。 「広がる言葉」「言葉を広げよう」で1555の語彙を提示して、生徒の語彙を増やす手立てを講じている。 「学びの扉／学びを支える言葉の力」は、言語能力の3側面である「創造的・論理的思考の側面」、「感性・情緒の側面」、「他者とのコミュニケーションの側面」から系統立て、「情報の扱い方」のほか、表現の仕方やコミュニケーションの基盤などを身につけられるようにしている。「学びを支える言葉の力」は巻末折り込みに一覽できるまとめも設けている。 <p>[思考力、判断力、表現力等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各教材の学習のポイントを「言葉の力」として明示し、着実な習得を図っている。「言葉の力」を多彩な言語活動の中で習得・活用することを通して、思考力・判断力・表現力を育成できる。 各教材の「言葉の力」は、「読むこと」から「書くこと」「話すこと・聞くこと」につながるように、また学年内で、更に3年間で系統的に積み上がるように配置している。 <p>[学びに向かう力、人間性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「小学校で学んだこと」「1年で学ぶこと」を通して、生徒が既習事項を振り返ったり見直しを持ったりできる。 巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」を通して、学び方を知ることができる。また、各教材中にも、適宜「学習の流れ」を示したり、記述式の「振り返り」を設けたりしている。 巻末の『言葉の力』一覽で、中学校3年間の学習を見通したり振り返ったりすることができる。 巻頭扉の「言葉の学習を始めよう」に国語学習の意義を示している。また、「学びを支える言葉の力」の「つながる・広がる」をはじめ、国語の学びを生活に生かす視点を各所に提示している。国語学習で言語能力を育み、それを生活に生かしていこうとする態度を養えるようにしている。 キャラクターの使用、物語やゲームを取り入れた教材、漫画による導入など、学習意欲を高める仕掛けを工夫している。
<p>学力向上への取り組み・家庭学習の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査や大学入学共通テストで求められている学力の育成を意識して、文章や言語活動の題材を選定している。また、文章や図表から読み取った情報を結び付けてまとめたり、条件に従って考えを記述したりする設問を積極的に設けている。 「読むこと」の脚注語彙や「広がる言葉」、資料編、Dマークで示した資料（デジタルコンテンツ）を中心に、家庭でも学ぶことのできる内容が豊富である。予習や復習に、また、学んだことを生かして取り組む学習に活用できる。
<p>他教科の学習や生活に生かす取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語の基礎力を鍛える「学びの扉／学びを支える言葉の力」は、他教科の学習や生活で必要となる言語能力を育成する教材にもなっている。教材末尾の「つながる・広がる」に、学んだことを他教科の学習や生活に生かす視点を示している。 レポートや新聞、手紙、さまざまな形式のスピーチや話し合いなど、他教科の学習に生きる言語活動をそろえている。 「読書案内」で361冊の多種多様な本を紹介し、豊かな読書生活を支援している。
<p>伝統・文化の継承への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 我が国で長く読み継がれてきた珠玉の古典作品を、多くの美しい写真資料とともに掲載している。また、古典の鑑賞・解説の文章も豊富に掲載している。 近代文学や近代詩の名作も、全学年に掲載している。詩歌は、学年3か所の詩教材に加え、扉に季節感のある詩歌を印象的な写真とともに掲載し、一年を通じて日本の豊かな風土に培われた言語文化に親しめるようにしている。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」でも、日本の伝統・文化に関する文章や言語活動を数多く扱っている。
<p>現代的な諸課題への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな現代的諸課題を、文章や言語活動の題材として取り上げている。特に、戦争・平和、防災・安全、環境、多様性社会（人権・福祉・国際理解）、キャリア教育に関する題材を積極的に扱い、他教科の学習とも関連していることを教科関連マークで示している。 メディアリテラシーおよび情報活用能力を育成する教材を全学年に設けている。
<p>道徳教育との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を育てる協働的な言語活動を豊富に取り上げている。
<p>小・中・高の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉の力」は、小学校国語の学習内容（学習指導要領）を受け、小中9年間の見直しを持って系統的に設定している。 小学校6年から中学校1年へ、スムーズな学習の移行ができるよう、1年初めの文章教材は、小学校と同じ教科書体で、大きな活字で掲載している。また、1年前半の教材は難しい内容を避け、小学校高学年の復習になるように配慮している。 3年では、高校への橋渡しとなるように、社会性のある題材や言語活動を多く設けたり、論説文・評論文を掲載したりしている。3年資料編では「古典の文法」（発展的な学習）も扱っている。
<p>カリキュラム・マネジメントへの取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の学習内容と関連があり、相互に学びを深めることのできる題材を多く取り上げ、教科関連マークで示している。 各教材は基本的に独立しており、他教科の学習と関連させるために、教材の順番を組み替えることもできる。
<p>教育のICT化への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> Dマークを示した教材では、学習に関連する音声や映像、ゲームなどの資料（デジタルコンテンツ）を用意している。 制度化された学習者用デジタル教科書の発行を予定している。
<p>特別支援教育への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の観点から、内容およびデザインについて検討し、専門家による校閲を受けている。全ての生徒にとって各部分の認識や重要な部分の判別がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色遣いを工夫している。 本文書体に、小学校教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を使用している。
<p>ユニバーサルデザインへの取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザイン観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けている。生徒の色覚特性への配慮から、色以外の模様や記号できちんと識別ができるようにしている。 脚注欄などの小さめの文字や色文字の振り仮名にはゴシック体を用いるなど、読みやすさに配慮している。
<p>印刷・製本</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境への配慮から、再生紙・植物油インキを用いている。また、本文用紙の軽量化に努めている。製本は堅牢である。

2. 対照表

ページ	教材名	学習指導要領の内容				配当時数				配当学期
		知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等			知・技	思・判・表			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと		話・聞	書	読	
巻頭	風の五線譜	(1)オ		(1)イ, (2)イ				1	一学期 40時間 / 書き予 8時間	
14	話し方はどうかな	(1)ウ	(1)ウ	(1)オ, (2)イ		1		2		
22	音声の働きや仕組み	(1)ア			1					
24 / 巻頭	詩の心——発見の喜び / 扉の詩七編	(1)ウ・オ		(1)ウ・エ, (2)イ				2		
29 / 242	描写や表現技法を用いる	(1)オ		(1)エ	(1)		1			
30	小さな発見を詩にしよう	(1)オ		(1)エ, (2)ウ			3			
32 / 250	文法とは・言葉の単位	(1)エ			1					
33	活字と書き文字・画数・筆順	(1)イ			1					
36	飛べ かもめ	(1)ウ		(1)イ・オ, (2)イ				3		
41 / 238	文脈を捉え, 伏線に気づく	(1)ウ		(1)イ				1		
42	さんちき	(1)ウ		(1)イ・オ, (2)イ				4		
54 / 246	相手の話を受け止め, 引き出す		(1)エ			1				
55	話を聞いて質問しよう		(1)エ, (2)ア			2				
58	接続する語句・指示する語句	(1)エ			1					
62	オオカミを見る目	(1)ウ・エ, (2)ア・イ		(1)ア・エ, (2)ア				4		
70	調べて分かったことを伝えよう	(2)ア・イ		(1)ア・イ, (2)ア			6			
77 / 253	文の成分・連文節	(1)エ			2					
78	音読み・訓読み	(1)イ			1					
80	碑	(3)オ		(1)オ, (2)ウ	(2)			2		
96 / 230	事実と考えを区別する	(2)ア		(1)ア	(1)			1		
97	私のタンポポ研究	(1)ウ, (2)ア・イ		(1)ア・ウ, (2)ア				5		
106 / 234	根拠を挙げて考えを述べる	(2)ア		(1)ウ	(1)		1			
107	根拠を明確にして書こう	(2)ア・イ		(1)ウ・オ, (2)ア			6			
112	中心を明確にして話そう	(1)ウ, (2)ア・イ	(1)イ・ウ, (2)ア			5				
118	方言と共通語	(3)ウ			1					
120	漢字の部首	(1)イ			1					
122	月夜の浜辺	(1)オ		(1)イ, (2)イ				1		
126	移り行く浦島太郎の物語	(3)イ		(1)オ	(1)			1		
130	伊曾保物語	(3)ア		(1)エ	(3)			3		
135	竹取物語	(3)ア		(1)オ	(4)			4		
144	矛盾	(3)ア		(1)ア	(3)		1	2		
148	案内や報告の文章を書こう			(1)ア, (2)イ			3			
150	語の意味と文脈・多義語	(1)ウ			1					
152 / 258	単語の分類	(1)エ			2					
154	少年の日の思い出	(1)ウ		(1)ウ・エ, (2)イ				6		
169	視点を変えて心情を描こう	(1)ウ		(1)エ, (2)ウ			1			
170 / 262	名詞	(1)エ			1					
171	他教科で学ぶ漢字	(1)イ			1					
172	風を受けて走れ	(2)イ, (3)オ		(1)オ, (2)ア	(2)			2		
184	ニュースの見方を考えよう	(1)ウ, (2)イ		(1)ア	(1)オ, (2)ア		2	3		
192 / 226	分類する・比較する	(2)イ	(1)ア		(1)	1				
193	話し合いで理解を深めよう	(2)イ	(1)ア・オ, (2)イ			5				
199	心に残る出来事を表現しよう	(1)ウ・オ		(1)ア・ウ, (2)ウ			6			
205 / 264	連体詞・副詞・接続詞・感動詞	(1)エ			1					
206	漢字の成り立ち	(1)イ			1					
208	わたしの中にも	(1)オ		(1)イ・オ, (2)イ				2		
210	トロッコ	(3)オ		(1)エ, (2)イ	(4)			4		
					計	16	15	30	53	114
					書写および予備				26	
					総計				140	

【備考】

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容を扱う教材内で、併せて「知識及び技能」の内容を取り立てて扱う場合、「配当時数」の「知・技」欄にも括弧付きで時数を示した。
- ・「配当学期」欄に「書・予」とともに示した数字は、書写および予備の時数である。
- ・「知識及び技能」の「(1)イ」のうち、学年別漢字配当表の漢字については、読み慣れることを目的として全ての教材で扱っている。また、文や文章の中で使うことを目的として「書くこと」の教材で扱っている。特に小学校6年で学習した漢字は、「小学校6年の漢字〈日常〉」で取り立てて扱い、確認できるようにしている。その他の常用漢字については、371字を第1学年で新出漢字として提出している。